

後半戦の後半

～今年度も残り3ヶ月～

新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のために国が発した「緊急事態宣言」のもとで始まった令和2年度の教育活動も12月に入り、いよいよ残り3ヶ月となりました。

9月までの半年間は、5月まで「臨時休校」措置の中で、生徒は寮での課題学習に取り組み、先生達は学校再開に向けて色々な準備に明け暮れる日々が続いていました。1学期に行う予定だった宿泊研修や学校祭（こもれび祭）も実施できない状況でした。

夏休みも、地元が感染拡大地域（関東・関西方面など）の生徒は親元に帰れずに寮で過ごすことになりました。

そんな中ではありましたが、9月以降やっと少しずつ色々な規制が緩和されてきた中で、10月9日（金）には、縮小版ではありますが、「体育大会」（午前）と「こもれび祭」（午後）を実施することが出来たことは、生徒にとっても嬉しい出来事だったと思います。

しかし、まだまだ新型コロナウイルス感染の危機が無くなったわけではありません。感染者は以前に比べ多くなっている状況があり、クラスターが再び増加しています。職場などでも食事中や休憩中にマスクを外して大きな声で会話をしたことが感染の原因となっているようです。

日高地区では感染者は出ていませんが、誰もが感染する危険性があります。

「自分は大丈夫」という過信と油断が、自分自身を危険にさらすことになります。そしてそれは周囲の人を巻き込んでしまう可能性があります。

特に3年生は、自分の将来を左右する進路決定の時期になります。新型コロナウイルスに感染してしまったら、取り返しがつかなくなる可能性もあります。

3年生だけの問題ではなく、1・2年生も「感染しない」「うつさない」行動を徹底してください。

残り3ヶ月で、できなかったことを取り返すぐらいの勢いで、学校生活を送ってもらえるように頑張りたいと思っています。

沖縄の青い空の下で学んだこと

～見学旅行を終えて～

11月16日（月）～20日（金）まで沖縄を研修地として令和2年度の見学旅行を実施することが出来ました。当初は10月の前半の予定でしたが、コロナ禍の状況を見ながら予定を調整して何とか実施できました。

2年生の生徒6名と引率教員2名と共に団長として参加してきました。

初日から最終日まで好天に恵まれ、最高気温27℃が続いた日々でした。

沖縄での最初の研修は、「糸数ガマ」「平和の礎」「平和記念公園」を見学し、戦争の悲惨さを感じ、人の命の尊さを学び、平和の大切さを学ぶものでした。「糸数ガマ」では、ガイドの方から当時の様子を聞きながら、真っ暗な洞窟を懐中電灯だけを頼りに歩を進めていき、当時は明かりもなければ、食糧や水もない中で、置き去りにされた人々の悲惨な状況を生徒達は想像していたようでした。



今回の見学旅行は、沖縄の文化や自然に触れる研修が多くありました。「美ら海水族館」では、バックヤード見学を見学させてもらい水族館の裏側から飼育の大変さや巨大水槽を上から見学するなど貴重な体験ができ、「沖縄ワールド」「琉球ガラス」「珊瑚の海」などでは、伝統芸能などを学ぶことが出来ました。

生徒達にとっては、貴重な体験が出来た見学旅行になったと思います。

